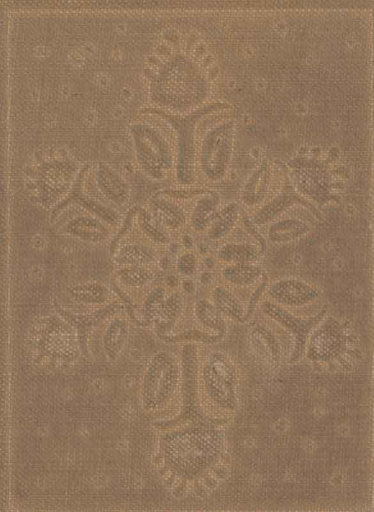




近代日本文学辞典

久松潜一 編
吉田精一

東京堂

近代日本文学辞典

定價 850 圓

複 不
製 許

昭和 29 年 5 月 20 日 初版印刷

昭和 29 年 5 月 30 日 初版発行

編纂者 久 松 潜 一
吉 田 精 一

東京都千代田区神田神保町一の一七

発行者 大 橋 勇 夫

東京都港区芝三田豊岡町八

印刷者 川 口 芳 太 郎

発行所 東京都千代田区神田 株式会社 東 京 堂
神保町一の一七

電話東京 29 局 5181~5
振替口座東京 270 番

印刷 図書印刷株式会社 製本 渡辺製本株式会社

序 文

明治、大正、昭和三代の文学は、時にしてわずか九十年にみたないが、その間生まれた作品の量と作家思想家の数においては、実に日本文学史上近世以前の総量と総数とに匹敵するといつてよい。又そのふくむ複雑にして多岐な思潮は、少なくともヨーロッパ文学の十八世紀以降、二百五十年の傾向と流派をすべて圧搾してふくんでいるのである。

近代文学の形態としては、伝統的な短歌・俳句・漢詩・小説・隨筆・戯曲などに加えて近代詩・文芸評論及び、芸術・文化等の諸評論が、独立したものとして存在する。それらのすべてに精通することは到底一人のよくする所ではない。しかもその底をつらぬくものは、遊戲的気分ではなく、人間形成の志向をもつことにおいて、近世以前と大きなへだたりをもつ。近時高等学校の国語教科書の内容に、近代文学関係のものが多くとられているのは、ことばによる思想感情の陶冶を目標にし、広い教養を通じて人間形成を行おうとする国語教育の目的に副うものといつても過言ではないのである。

とくに自由な市民社会は明治以後においてはじめて基礎を置かれ、現代はその延長上に來るのであるから、その意味でも近代社会の具体的表現たる近代文学に対する知識と理解とは、他の時代に比してより重要にして必修のものたらざるを得ない。

しかるに近代文学の研究は日がまだ浅く、実証にもとづく確実な調査はわずかに歩を印したのみである。たまたま刊行された近代文学辞典乃至辞典中に収めた近代の部を見るに、あるいは忠実な解説よりはやや批判に傾き、或は収容量が偏小であり、客観的な見地に立って、広くあらゆる様式形態にわたって網羅し

た辞典はまだ見あたらない。それは、以上の理由から止むを得ないともいふべきである。

編者等はここに見るところがあり、東京堂の乞に応じて、可能な範囲において視野を広げ、在来最大の近代日本文学辞典にも少なくも数倍する項目をおさめて、時代の要求に応じようとした。各項目については、最も適当と思われる筆者に依頼して、責任を以て執筆を願った。この書の体を成すことを得たのは、一にこれらの執筆者各位の賜として、深甚の感謝をささげるのである。編者等はこれを以て完美とは毫も思わぬが、常に座右に置いて近代文学の事を弁ずるにはほぼ差支えないほどのものを成し得たと信じるのである。

もとより編者の未熟と不才とに加うるに、紙数の制限もあって、項目の選定その他には、猶或は遺漏乃至欠陥も存在するであろう。それについては大方博雅の士の叱正に待ちたいと思う。

巻末の年表及び研究書目はできる限り客観的に且つ正確を期した。編者の一人なる吉田精一は、十数年前その作成した明治大正文学史附載の年表によって幾多の誤謬を世に流し、かえりみて忸怩たるに堪えぬものがある。この度は石丸久、川口朗両君の援助を得て更に調査を厳にして、幾分とも補正するところがあったから、今後はこの年表によられることを望む。

最後にこの辞典の企画に参劃され、執筆者項目の選定に助言を与えられた本間久雄氏、編集に労力をさくをいとわれなかった村松定孝、石丸久、川口朗、三好行雄の諸氏、とくに練達の手腕によって編者の不備を補われた出版部長増山新一氏及び編集部の浅井隆氏に多大の謝意を表する。

昭和一九年四月

編者

近代日本文学辞典 目次

序

凡例

分類項目表

近代日本文学概観

前期の文学

中期の文学

後期の文学

戦後の文学

外国文学の影響

近代日本文学辞典

近代日本文学研究書

近代日本文学年表

索引

作品・事項索引

作家索引

五

二五

三〇

三八

四六

五六

五五

七二

九七

八六

八六

八六

凡 例

用語・符号・索引

◇本書は、明治・大正・昭和の三代にわたる近代日本文学の、思潮・作家・作品・事項・雑誌等の主要なるもの約一八〇〇項目を収録した。

◇項目の選定には、公平妥當を期したが、紙数の關係から止むを得ず省略したものである。これ等はいずれかの關係項目中に記述されているので、巻末の索引により檢出されたい。

◇項目は、五十音順に配列した。ただし「作品」は、五十音順によらず、それぞれその「作家」の項目のもとに収載した。例えば、島崎藤村の「破戒」の解説は、「島崎藤村」の人名項目のもとに収めてある。なお、各項目の体系的な關連が一目でわかるよう、巻頭に「分類項目表」を掲げた。

◇「近代日本文学概観」および「外国文学の影響」は、本書の序説をなす意味において巻頭に収載した。

◇「参考文献」は、それぞれ項目の終りに掲げたが、さらにこれを補足して「近代日本文学研究書目」を巻末に収録した。

◇「年表」は、現行のあらゆる年表および資料を参照して最善を期した。

◇原則として項目名は旧漢字、引用は原本のままにした。

◇作者の生没年のカッコ内の数字は西暦を示し、没年の記載なきものは現存を示す。

◇作品の発表年月、雑誌の発行年月に、明・大・昭と記したのは、明治・大正・昭和の略。例えば、大二・九とあるは、大正二年九月の略。

◇本文中に*印を附した人名・雑誌名・事項等は、独立項目として収録されていることを示す。

◇↓は、別称の項目で収録されているものを示す。

(例) 岩田豊雄 いわた ぶんすけ ↓ 獅子文六 ししもんろく

◇索引は、「作家索引」と「作品・事項索引」に分け、雑誌・用語等は事項に含めた。

執筆者・編集者

◇各項目の執筆は、それぞれ専門家に依頼し、執筆者各位の姓を明記した。

◇編集は、久松潜一、吉田精一が責任者となり、委員として石丸久、川口朗、三好行雄、村松定孝の四名が参加した。「年表」「研究書目」も以上の協力になるものである。

分類項目表 目次

(B) 事項

新興俳句	三九
シュール・レアリスム	三九
実存主義	三三

二、流派・結社

一言文一致運動	三六
浪漫主義文学	三七
象徴主義文学	三三
自然主義文学	三九
理想主義文学	三七
* 新理想主義文学	三七
* 新浪漫主義文学	三六
* 耽美主義文学	三六
社会主義文学	三三
プロレタリア文学	三三
小説・評論	三三
詩	三三
短歌	三三
俳句	三三
政治小説	四二
社会小説	三三
観念小説	三三
悲惨(深刻)小説	三三
戦争文学	四六
明治	四六
大正・昭和	四七
新傾向句	三八

* 新詩社

あやめ会	三九
自由詩社	三九
巡礼詩社	三九
民衆詩派	三九
マチネ・ポエチック	三九

○

御歌所派	三九
大八洲学会	三九
浅香社	三九
竹柏会	三九
根岸短歌会	三九

(A) 概観

一、前期の文学	三三
概説	三三
小説・評論	三三
俳句	三三
短歌	三三
詩	三三
二、中期の文学	三三
概説	三三
小説・評論	三三
演劇	三三
詩	三三
短歌	三三
俳句	三三
三、後期の文学	三三
概説	三三
外国文学の影響	三三
英米文学	三三
フランス文学	三三
ドイツ文学	三三
北欧文学	三三
ロシア文学	三三
四、戦後の文学	三三
概説	三三
小説	三三
評論	三三
演劇	三三
詩	三三
短歌	三三
俳句	三三

車前草社……………	三〇	一元描写……………	二五	女学雑誌……………	三三	不同調……………	三〇
○ 筑波会……………	四六	形式主義文学論……………	二二	以良都女……………	三七	種蒔く人……………	四〇
秋声会……………	三〇	行動主義文学論……………	二九	都の花……………	六五	女人芸術……………	五九
日本派……………	五八	心境小説……………	三八	新小説……………	五三	文芸戦線……………	三三
○ 私小説論……………	六六	風俗小説論……………	六八	しがらみ草紙……………	五七	戦旗……………	四四
文芸協会……………	三九	第二芸術論……………	四三	なにはがた……………	五〇	文学界(昭和)……………	六六
自由劇場……………	三九	四、雑誌・叢書・文学賞……………		早稲田文学……………	六五	文芸……………	六九
芸術座……………	三三	新聞雑誌……………	五八	文学界(明治)……………	三七	日本浪漫派……………	五八
築地小劇場……………	四七	明六雑誌……………	七九	文芸倶楽部……………	四〇	人民文庫……………	五七
三、文芸形態・文学論……………		近事評論……………	六二	帝國文学……………	四三	コギト……………	五〇
探偵小説……………	四二	花月新誌……………	一七	青年文……………	四三	近代文学……………	五二
大衆文学……………	四二	願才新誌……………	一七	めざまし草……………	七〇	新日本文学……………	五二
農民文学……………	五三	団々珍聞……………	六九	よしあし草……………	五五	人民文学……………	五八
写生文……………	五八	洋々社談……………	四〇	芸文……………	五三	群像……………	五二
隨筆文学……………	五九	国民之友……………	三二	万年艸……………	五二	○ 明星……………	五五
児童文学……………	五三	日本及日本人……………	五七	新潮……………	五九	白百合……………	六六
散文詩……………	四〇	太陽……………	四三	文章世界……………	五三	屋上庭園……………	一六
ルポルタージュ文学……………	五九	改造……………	四三	スバル……………	四〇	日本詩人……………	五七
口語歌……………	五三	解放……………	一五	白樺……………	四四	驢馬……………	五二
自由律俳句……………	五三	文芸春秋……………	六〇	三田文学……………	六〇	詩と詩論……………	五五
ラジオ・ドラマ……………	五七	世界……………	四三	新思潮……………	五二	四季……………	五七
○ 没理想論争……………	六〇	展望……………	四二	青鞜……………	四二	歷程……………	五八
写生説……………	五五	○ 我楽多文庫……………	二五	奇蹟……………	五三	詩学……………	五九
平面描写……………	三三			赤い鳥……………	六六	荒地……………	五九
				人間……………	五二	VOU……………	五〇

分類項目表

心の花……………	三三	劇作……………	六四	末松謙澄……………	四二	小宮山天香……………	三四
馬酔木(短歌)……………	七	○ 新著百種……………	五五	有賀長雄……………	六	淡島寒月……………	九
アカネ……………	六	文学世界……………	六六	高田半峰……………	四六	○ 小中村義象……………	三八
アララギ……………	六	芥川賞……………	七	坪内逍遙(小説)……………	四九	萩野由之……………	三〇
創作……………	四九	直木賞……………	三三	西村天囚……………	五五	芳賀矢一……………	三〇
潮音……………	四六	新潮賞……………	五四	徳富蘇峰……………	五〇	内海月杖……………	四三
水穂……………	六六			三宅雪嶺……………	六四	○ 森 鷗外(小説)……………	七〇
榎の木……………	四七			真善美日本人……………	六五	石橋忍月……………	二〇
多磨……………	四四			大賀 祝……………	一五	石橋忍月評論集……………	二〇
○ ホトギス……………	六〇	(C) 作家・作品……………		志賀重昂……………	五三	岡倉天心……………	二五
半面……………	五〇	一、評論・思想・隨筆家……………		山路愛山……………	五三	茶の本……………	二五
卯杖……………	四二	福沢諭吉……………	六〇	福本日南……………	六四	・ 東洋の理想……………	二五
海紅……………	一五	学問ノス、メ……………	六〇	竹越三又……………	四三	植村正久……………	二五
層雲……………	四八	文明論之概略……………	六〇	○ 成島柳北……………	五二	内村鑑三……………	四〇
石楠……………	五五	福翁自伝……………	六二	柳橋新誌……………	五二	余は如何にして基督	四一
雲母……………	一四	中村正直……………	五二	田島象二……………	五二	信徒となりし乎……………	四一
天の川……………	六三	西国立志編……………	五二	服部撫松……………	五二	巖本善治……………	三三
馬酔木(俳句)……………	六	西 周……………	五三	野崎左文……………	五六	内田魯庵……………	二五
万緑……………	五〇	加藤弘之……………	三六	○ 神田孝平……………	三三	暮の二十八日……………	二五
天狼……………	四三	田口卯吉……………	四一	織田純一郎……………	一〇	文学者となる法……………	二五
○ 歌舞伎……………	三三	中江兆民……………	五九	井上 勤……………	三三	社会百面相……………	二五
演芸圖報……………	一五	一年有半……………	五九	川島忠之助……………	三三	思ひ出す人々……………	四〇
新演芸……………	六六	藤田茂吉……………	六五	高橋五郎……………	四七	星野天知……………	六五
演劇新潮……………	一五	外山正一……………	五九	森田思軒……………	七七	北村透谷(詩)……………	四九
劇と評論……………	六四	井上哲次郎……………	三三			平田秃木……………	五九

馬場孤蝶……………	五二	田岡嶺雲……………	四三	山川菊栄……………	七
戸川秋骨……………	四五	小山鼎浦……………	一五	神近市子……………	三三
高瀬文淵……………	四五	樋口竜峽……………	一五	滝田樗陰……………	四
柳田国男……………	七三	角田浩々歌客……………	一七	石井柏亭……………	九
○		幸徳秋水……………	一六	岸田劉生……………	四三
小泉八雲……………	五〇	社会主義神髓……………	一六	柳宗悦……………	七四
怪談……………	元一	片山潜……………	三三	○	
人生と文学……………	元一	堺枯川……………	三三	見島喜久雄……………	三三
高山樗牛……………	四六	石川三四郎……………	一〇	木村莊八……………	六〇
滝口入道……………	四六	安部磯雄……………	六	○	
美的生活論……………	四六	○		西田幾多郎……………	五五
姉崎嘲風……………	六	島村抱月……………	五七	善の研究……………	五五
登張竹風……………	五七	乱雲集……………	五八	桑木嚴翼……………	六二
斎藤野の人……………	三六	新美祥学……………	五九	田中玉堂……………	四四
大町桂月……………	一〇	近代文芸の研究……………	五九	杉森孝次郎……………	四四
久保天随……………	三六	長谷川天溪……………	五七	阿部次郎……………	六
大塚保治……………	一六	自然主義……………	五九	三太郎の日記……………	六
上田敏……………	一四	金子筑水……………	六九	安倍能成……………	三三
文芸論集……………	一四	水谷不倒……………	六七	小宮豊隆……………	三三
海潮音……………	一五	中島孤島……………	五五	野上白川……………	五五
うづまき……………	一五	片上伸……………	二〇	和辻哲郎……………	六九
新村出……………	五七	生の要求と文学……………	二〇	天野貞祐……………	六九
網島梁川……………	四三	相馬御風……………	四九	野村隈畔……………	五九
病間録……………	四三	生田長江……………	六	土田杏村……………	四一
黒岩涙香……………	二八	最近の小説家……………	六	赤木樗平……………	六
木村鷹太郎……………	二八	中沢臨川……………	五三	倉田百三(戯曲)……………	二六
新渡戸稻造……………	五五	吉江喬松……………	七五	石坂養平……………	一七
				辻潤……………	四六

分類項目表

加藤一夫……………	二四	現代文學論……………	二六	市原豐太……………	二五	安愚樂鍋……………	二八
新居格……………	二五	宮本顯治……………	二六	桑原武夫……………	二六	西洋道中膝栗毛……………	二八
宮島新三郎……………	二六	敗北の文學……………	二六	河盛好藏……………	二七	万亭応賀……………	二八
木村毅……………	二六	板垣直子……………	二五	本多顯彰……………	二五	久保田彦作……………	二七
杉山平助……………	二四	矢崎弾……………	二五	中野好夫……………	二五	高島藍泉……………	二七
大宅壯一……………	二五	小林秀雄……………	二五	竹山敏彦……………	二五	三品蘭溪……………	二七
○河上肇……………	二六	文芸評論……………	二五	竹山道雄……………	二五	松村春輔……………	二七
貧乏物語……………	二六	無常といふこと……………	二五	竹内好……………	二五	染崎延房……………	二七
自叙伝……………	二六	河上徹太郎……………	二六	飯島正……………	二五	武田交来……………	二七
大森義太郎……………	二六	岩上順一……………	二六	津村秀夫……………	二五	採菊山人……………	二七
谷川徹三……………	二六	雅川 晃……………	二六	○寺田寅彦……………	二五	岡本起泉……………	二七
三木 清……………	二六	瀨沼茂樹……………	二六	冬彦集……………	二五	伊東專三……………	二七
哲学ノート……………	二六	龜井勝一郎……………	二五	萬華鏡……………	二五	古川魁蕾……………	二七
人生論ノート……………	二六	唐木順三……………	二五	戴柑子集……………	二五	南 新二……………	二七
戸坂 潤……………	二六	中村光夫……………	二五	小島鳥水……………	二五	前田香雪……………	二七
清水幾太郎……………	二六	保田与重郎……………	二五	内田百閒……………	二五	三遊亭円朝……………	二七
○平林初之輔……………	二六	荒 正人……………	二五	田部重治……………	二五	○東海散士……………	二八
文學理論の諸問題……………	二六	平野 謙……………	二五	高田 保……………	二五	佳人之奇遇……………	二八
青野季吉……………	二六	小田切秀雄……………	二五	中谷吉郎……………	二五	末広鉄腸……………	二八
外在批評論……………	二六	花田清輝……………	二五	森田たま……………	二五	雪中梅……………	二八
目的意識論……………	二六	○土井光知……………	二五	小堀杏奴……………	二五	花間鶯……………	二八
蔵原惟人……………	二七	文學序説……………	二五	幸田 文……………	二五	菊亭香水……………	二八
芸術論……………	二七	辰野 隆……………	二五	二、小説家……………	二五	戸田欽堂……………	二八
勝本清一郎……………	二八	鈴木信太郎……………	二五	戲作者……………	二五	桜田百衛……………	二八
窪川鶴次郎……………	二八	渡辺一夫……………	二六	飯名垣魯文……………	二七	宮崎夢柳……………	二八
		中島健藏……………	二六			矢野竜溪……………	二八

森 鷗外	七〇	川上眉山	二九	斎藤緑雨	三二	武田鷺塘	四四
初 恋	三五	江見水蔭	一五	宮崎三昧	六七	村井弦齋	七二
嵯峨の屋お室	三四	巖谷小波	一三	半井桃水	五五	己が罪	三九
小説総論	六〇	大橋乙羽	六六	原抱一庵	六八	菊池幽芳	三八
あひびき	六〇	丸岡九華	六六	三日月	七四	北田薄水	四四
平 凡	六九	石橋思案	一八	村上浪六	七四	瀬沼夏葉	四四
其面影	六九	日本韻文論	七三	心のあと(出鷹)	七六	生さぬ仲	七三
浮 雲	六九	青年唱歌集	七三	芭蕉七部集抄	七六	柳川春葉	七三
二葉亭四迷	六七	新体詞選	七三	運 命	七六	山岸荷葉	七六
役の行者	四八	蜩 蝶	七三	名和長年	七六	塚原波柿園	四七
新曲浦島	四八	夏木立	七三	天うつ浪	七六	武田仰天子	四七
桐一葉	四七	金色夜叉	一三	風流微塵藏	五五	渡辺霞亭	六八
文学その折々	四七	多情多恨	一八	五重塔	五五	谷 活 東	四七
坪内逍遙	四六	三人妻	一八	風流仙	五五	歌行燈	二三
小説神髓	四六	色懺悔	一八	幸田露伴	五三	照葉狂言	二三
宇田川文海	二七	尾崎紅葉	一六	雨	六七	泉 鏡 花	二〇
木村 曙	三五	若松賤子	七三	今戸心中	六七	十三夜	五三
中島湘烟	五四	小金井喜美子	五九	河内屋	六七	一葉日記	五三
新粧之佳人	四九	月 草	七五	黒蜥蜴	六七	たけくらべ	五三
緑蓑談	四九	水沫集	七五	変目伝	六六	にこりえ	五二
須藤南翠	四九	澀江抽斎	七五	広津柳浪	六五	樋口一葉	六一
むら竹	六六	高瀬舟	七五	観音岩	三三	三宅花圃	六三
饗庭篁村	六五	阿部一族	七五	ふところ日記	三〇	あられ酒	三三
新社会	七七	雁	七五	書記官	三〇	かくれんぼ	三三
浮城物語	七六	即興詩人	七四	賤 機	三〇	油地獄	三三
経国美談	七六	舞 姫	七四				

分類項目表

長田秋濤	八四	乞食	二七	三島霜川	六七
草村北星	三五	徳富芦花	五二	東京の三十年	四七
田口掬汀	四二	不如帰	五三	徳田秋声	四九
中村花瘦	五五	自然と人生	五三	新世帯	四九
前田曙山	六六	思出の記	五三	足迹	四九
生田葵山	六六	黒潮	五四	微欄	四九
田村松魚	六六	新春	五四	あらくれ	四九
渡辺黙禅	六九	富士	五四	仮装人物	四九
押川春浪	六八	国木田独歩	五五	縮泡鳴	四九
佐藤紅緑	三三	独歩集	五五	岩野泡鳴	二元
大倉桃郎	一四	運命	五五	耽溺	二元
○		独歩集第二	五五	放浪	一元
小杉天外	三四	欺かざるの記	五七	断橋	一元
はつ姿	四五	島崎藤村	六一	発展	一元
はやり唄	五五	若菜集	六一	夕潮	一元
魔風恋風	五五	破戒	五五	闇の盃盤	一元
後藤宙外	三七	春	五五	神秘的半獣主義	二三
ありのすさび	三八	家・新生	五四	一元描写論	二三
非自然主義	三八	風	五四	正宗白鳥	四九
小栗風葉	五一	夜明け前	五五	何処へ……	四九
亀甲鶴	一六	田山花袋	四六	微光	四九
恋慕ながし	一六	野の花	四六	牛部屋の臭ひ	四九
青春	一七	蒲団	四六	人生の幸福	四六
恋ざめ	一七	生	四六	文壇人物評論	四六
木下尚江	二五	田舎教師	四七	真山青果(戯曲)	四六
火の柱	二五	時は過ぎ行く	四七	中村吉蔵(戯曲)	五五
良人の自白	二五				

こゝろ	人間万歳	長与善郎	春琴抄	四〇
道草	愛慾	項羽と劉邦	細雪	四〇
明暗	真理先生	青銅の基督	少将滋幹の母	四〇
文学評論	志賀直哉	竹沢先生と云ふ人	愛すればこそ	四〇
大塚楠緒子	暗夜行路	犬養健	陰翳礼讃	四〇
鈴木三重吉	城の崎にて	滝井孝作	後藤末雄	四〇
千鳥	和解	無限抱擁	武林無想庵	四〇
山彦	小僧の神機	網野菊	長田幹彦	四〇
小鳥の巢	山科の記憶	○	澤落	四〇
桑の実	邦子	永井荷風	零落	四〇
三重吉童話集	灰色の月	地獄の花	水上瀧太郎	四〇
森田草平	有島武郎	あめりか物語	大阪	四〇
煤煙	或る女	冷笑	大阪の宿	四〇
輪廻	宣言	すみだ川	貝殻追放	四〇
野上彌生子	死と其の前後	腕くらべ	久保田万太郎	四〇
海神丸	カインの末裔	つゆのあとさき	末枯	四〇
真知子	生れ出づる悩み	濯東綺譚	心ごころ	四〇
中 勘助	惜しみなく愛は奪ふ	勲章	短夜	四〇
銀の匙	宣言一つ	珊瑚集	寂しければ	四〇
田村俊子	有島生馬	下谷叢談	大寺学校	四〇
あきらめ	嘘の果	荷風日歴	春泥	四〇
木乃伊の口紅	里見 淳	谷崎潤一郎	市井人	四〇
武者小路実篤	善心悪心	刺青	道 芝	四〇
お目出たき人	銀二郎の片腕	麒麟	佐藤春夫	四〇
その妹	多情仏心	痴人の愛	田園の憂鬱	四〇
幸福者	安城家の兄弟	夢喰ふ蟲	都会の憂鬱	四〇
友情	みごとな醜聞	芦 荻	更生記	四〇

分類項目表

殉情詩集	三五	生命の冠	三七	苦の世界	一四	江原小彌太	一四
車塵集	三五	同志の人々	三七	子を貸し屋	一四	賀川豊彦	一四
退屈読本	三五	波	三七	思ひ川	一四	死線を越えて	一六
豊島与志雄	五〇	女の一生	三七	加能作次郎	二二	○	
野ざらし	五〇	路傍の石	三七	厄年	二二	横光利一	四二
道化役	五〇	松岡 譲	四二	世の中へ	二二	日輪	四二
芥川竜之介	五〇	江口 渙	四二	細田民樹	四二	上海	四二
羅生門	四	藤森成吉	四六	真理の春	四二	機械	四二
戯作三昧	四	若き日の悩み	四六	谷崎精二	四二	紋章	四二
地獄変	四	何が彼女をさうさせたか	四七	相馬泰三	四二	家族会議	四二
玄鶴山房	四	磯茂左衛門	四七	細田源吉	四二	旅愁	四二
菌 車	四	小島政二郎	四三	吉田絃二郎	四二	純粹小説論	四二
文芸的な、あまりに	四	南部修太郎	四三	宮地嘉六	四二	川端康成	三七
文芸的な	四	室生犀星	四七	水守亀之助	四二	伊豆の踊子	三七
菊池 寛	三	愛の詩集	四七	中村武羅夫	四二	浅草紅団	三九
父帰る	三	抒情小曲集	四七	加藤武雄	四二	禽 獸	三九
無名作家の日記	三七	性に眼覚める頃	四七	三上於菟吉	四二	雪 国	三九
忠直卿行状記	三七	あにいもうと	四九	白石実三	四二	千羽鶴	三〇
恩讐の彼方に	三七	○		水野仙子	四七	名 人	三〇
藤十郎の恋	三六	葛西善蔵	一七	田中 純	四二	末期の眼	三〇
真珠夫人	三六	哀しき父	一七	中戸川吉二	四二	片岡鉄兵	三〇
久米正雄	三六	子をつれて	一七	藤沢清造	四二	中河与一	三〇
牛乳屋の兄弟	三六	広津和郎	四二	江馬 修	四二	十一谷義三郎	三六
学生時代	三六	神経病時代	四二	受難者	四二	唐人お吉	三六
破 船	三六	風雨強かるべし	四二	島田清次郎	四二	佐佐木茂索	三六
山本有三	三七	宇野浩二	四二	地 上	四二	今 東 光	三五
嬰兒殺し	三七	蔵の中	四二	沖野岩三郎	四二	石浜金作	二〇

池谷信三郎	六九	老妓抄	一七	宮島資夫	六〇	橋本英吉	五五
望郷	六九	河明り	一七	葉山嘉樹	五六	富士山頂	五五
稲垣足穂	二〇	母子叙情	一七	淫売婦	五七	間宮茂輔	五五
岡田三郎	二〇	林美美子	一七	海に生くる人々	五七	あらがね	五五
浅原六朗	二七	放浪記	一八	徳永直	五五	壺井栄	五五
嘉村磯多	二四	晩菊	一八	太陽のない街	五五	和田伝	五五
途上	二四	浮雲	一八	八年制	五五	沃土	五五
牧野信一	二四	吉屋信子	一八	中野重治	五五	伊藤永之介	五五
父を売る子	二四	女の友情	一八	歌のわかれ	五五	鷺	五五
鬼涙村	二五	○	一八	中野重治詩集	五五	岩倉政治	二七
尾崎士郎	二五	坪田譲治	一八	斎藤茂吉ノオト	五五	武田麟太郎	四六
人生劇場	二五	風の中の子供	一八	芸術に關する	五五	日本三文オペラ	四七
○	二五	佐々木味津三	一八	走り書	五五	銀座八丁	四七
宮本百合子	二六	下村千秋	一八	林房雄	五五	藤沢桓夫	四七
貧しき人々の群	二六	中村正常	一八	青年	五五	堀辰雄	四七
伸子	二六	竜胆寺雄	一八	小林多喜二	五五	聖家族	四七
風知草	二六	保高德蔵	一八	十五日	五五	風立ちぬ	四七
播州平野	二六	芹沢光治良	一八	蟹工船	五五	かげろふの日記	四七
道標	二六	深田久彌	一八	党生活者	五五	菜穂子	四七
宇野千代	二六	中村地平	一八	黒島伝治	五五	梶井基次郎	四七
三宅やす子	二六	田畑修一郎	一八	里村欣三	五五	檸檬	四七
平林たい子	二六	○	一八	岩藤雪夫	五五	井伏鱒二	四七
施療室にて	二六	前田河広一郎	一八	今野賢三	五五	多甚古村	四七
かういふ女	二六	三等船客	一八	立野信之	五五	山椒魚	四七
佐多稲子	二六	新井紀一	一八	貴司山治	五五	本日休診	四七
くれなる	二六	中西伊之助	一八	山田清三郎	五五	伊藤整	四七
岡本かの子	二六						